



0 基礎デザイン学の未来 Study for science of design

木曾太郎
Taro KISO

The Life man took pictures while I was being demined. He told me that our attack had been halted, and that this would undoubtedly prove to be the most interesting picture of the day. Pinky arrived at the Mayfair Club at six ordered a drink and said There were eighteen paratroopers in the plane. The boy next to me had been very quiet up to now. But now he turned to me and asked, Is it true that you're a civilian chute didn't open.

I answered. He went back inside himself, but in fifteen minutes he asked me again. You mean to say that if you didn't want to, you didn't have to come That's right. But silently, I added, If you only knew. He was quiet again,

but this time the interval was shorter you had wanted to, could you have flown back to the States tonight instead of this, Not impossible. I said. Now he was direct. How much are you getting paid to do this.

A thousand a month, lied The green light in the front of our plane came on it was the signal to get ready to jump. The boys all stood up and straightened the static lines of their parac hutes. I got my camera ready. Then the red light came on the signal to jump. My neighbor was the last one out he turned back and yelled at me I don't like your job, pal. It's too dangerous! He jumped, and the plane was empty. At midnight we took off.

0...1

も言いすぎではない。その上、教会の中で演奏される宗教音楽は、グレゴリオ聖歌やオルガン曲にとどまらず、カンタータやミサ曲、オラトリオなどいくつかのジャンルがあって、それらもまた教会を訪れる人々にとっては、この建築物と切り離せない重要な意味をもっている。そして、私にとっても、ゲッチンゲンのクリスマスの雪の夜に、ゴシックのトーマス教会の中で聴いたオラトリオやミサ曲からうけた魂の喜びという感情は、それ以来どの演奏会場でも経験することのできないほど、深く心の中に生きつづけている。そのような経験が重なるにつれて、ヨーロッパの各地を旅する度に、その町の美しい教会を訪れることが、私のいちばん大切な仕事の一つとなっているそして、西ヨーロッパの各地だけにとどまらず、当時まだ入国許可をとることがきわめて難しかった東ドイツの教会を訪れる、という願いがおさえきれないほど強くなってしまったため、こっそり不法入国したことさえあった。先ず東ベルリン科学アカデミーの知人を訪問した帰途、そのまま汽車でドレスデンに向かった。第二次大戦末期の大空

襲によって数万人の犠牲者を出したこの町の中央駅に降り立つと、すぐ見渡すかぎり広がった廃墟の中に取り残されたクロイツ教会に向かった。このバロック教会は爆撃によって破壊された跡を荒塗りにしたままのコンクリートの壁で繕い、ステンド・グラスの代りに板を打ちつけた無惨な姿になっていたが、その中で行われたミサでは天使のコーラスと呼ばれて、ドイツでいちばん優れた聖歌隊とされていたクロイツコアーのコーラスを聴くことができた宿泊許可をとっていない以上、その晩は荒れはてた駅の構内で夜を明かすしか方法はなかったが、次の日訪れたライプツヒでは、パッハ自身がカントール（楽典長）をつとめて、最後の二十七年間を過ごし、あの口短調ミサ曲を頂点とする名作を次々と世の中に送り出しつづけたトーマス教会でも、ミサに参加して、あのオルガンの演奏と教会付属合唱団のコーラスを聴くことができた。もちろん当時のような烈しい東西対立の中であって厳しい入国管理をしていた東独に、このような無謀なやり方で入りこんで、もし見つかればスパイ扱いにされてどんな目に合わされる

0...2

も言いすぎではない。その上、教会の中で演奏される宗教音楽は、グレゴリオ聖歌やオルガン曲にとどまらず、カンタータやミサ曲、オラトリオなどいくつかのジャンルがあって、それらもまた教会を訪れる人々にとっては、この建築物と切り離せない重要な意味をもっている。そして、私にとっても、ゲッチンゲンのクリスマスの雪の夜に、ゴシックのトーマス教会の中で聴いたオラトリオやミサ曲からうけた魂の喜びという感情は、それ以来どの演奏会場でも経験することのできないほど、深く心の中に生きつづけている。そのような経験が重なるにつれて、ヨーロッパの各地を旅する度に、その町の美しい教会を訪れることが、私のいちばん大切な仕事の一つとなっているそして、西ヨーロッパの各地だけにとどまらず、当時まだ入国許可をとることがきわめて難しかった東ドイツの教会を訪れる、という願いがおさえきれ入国したことさえあった。先ず東ベルリン科学アカデミーの知人を訪問した帰途、そのまま汽車でドレスデンに向かった。第二次大戦末期の大空襲によって数万人の犠牲者を出したこの町の中央駅に降り立つと、すぐ見渡すかぎり広がった廃墟の中に取り残されたクロイツ教会に向かった。このバロック教会は爆撃によって破壊された跡を荒塗りにしたままのコンクリートの壁で繕い、ステンド・グラスの代りに板を打ちつけた無惨な姿になっていたが、その中で行われたミサでは天使のコーラスと呼ばれて、ドイツでいちばん優れた聖歌隊とされていたクロイツコアーのコーラスを聴くことができた宿泊許可をとっていない以上、その晩は荒れはてた駅の構内で夜を明かすしか方法はなかったが、次の日訪れたライプツヒでは、パッハ自身がカントール（楽典長）をつとめて、最後の二十七年間を過ごし、あの口短調ミサ曲を頂点とする名作を次々と世の中に送り出しつづけたトーマス教会でも、ミサに参加して、あのオルガンの演奏と教会付属合唱団のコーラスを聴くことができた。もちろん当時のような烈しい東西対立の中であって厳しい入国管理をしていた東独に、このような無謀なやり方で入りこんで、もし見つかればスパイ扱いにされてどんな目に合わされるかわからなかった筈であるしかし、当時かなり多

かった中国人留学生と間違われたらしく、その後さらにワイマールのゲーテ記念館とニーチェ・ハウスに立ち寄って、フランクフルトに抜け出すまで何事もおこらずに済んでほっとした。二年間のゲッチンゲンでの生活を終えて、哲学を学ぶために移った南西ドイツのフライブルクの町には、幸いなことに、ドイツのゴシック大聖堂の中でいちばん優れた作品といわれるミュンスター大聖堂が建てられていた。この教会堂は、近くから見上げたときの簡素な美しさだけでなく、少し離れたシュヴァルツフルトの森の山腹から眺めるときにも古い町並にじっくり調和し、見事なプロファイルを浮き立たせていた。とりわけその正面の高い尖塔は石材で組み上げたということがほとんど信じられないほど、軽快で優雅な姿を蒼空にとけこませていて、これこそヨーロッパの尖塔の中で最も美しい作品である、と激賞している人々が多い。フライブルク大学に通っている間に、ゼミや図書館からの帰りに、大学に近いこの聖堂の前にたたずんだり、シュヴァルツフルトのタンネの森の中を逍遙しながら、緑の木々の間に見た、レースを編んだようなこの塔のイメージは一年間にわたってその著作を取り組みつづけて、講演を聴くだけでなくとうとう御自宅を訪れて貴重な時間をさいてお話を伺う機会さえ作っていただいたハイデッカー先生の温顔とともに、私にとってに家をでることになるが、やがて講義室に朝日が差し込んで、彫りの深い教授の顔と黒板に書かれたギリシア語やヘブライ語の文字をくっきりと浮き立たせていた光景を、今でも懐かしく思い浮かべることがある。また、日曜日毎に教会に通ってミサに出していたために、ドイツ人の学生仲間のうちには、当然私がクリスチャンであると考えていた人が多かったし、神学部での講義室や教会を通じて知り合うようになった何人かの親しい友人達は、その後教師となり、今も時おり文通がつづいている。々の芸術作品からうけた深い感銘は、今でもありありと思い浮かべることができる。そして、このときにパリからうけた印象は、世界のファッションの中心としての華やかな街のイメージである以上に、名も知られない街路の一つひとつに刻みつけられた、長い歴史の重みであった。しかしこの時

0...3



0
0
0
0
0
0

0...4

も言いすぎではない。その上、教会の中で演奏される宗教音楽は、グレゴリオ聖歌やオルガン曲にとどまらず、カンタータやミサ曲、オラトリオなどいくつかのジャンルがあって、それらもまた教会を訪れる人々にとっては、この建築物と切り離せない重要な意味も持っている。そして、私にとっても、ゲッチンゲンのクリスマスの雪の夜に、ゴシックのトーマス教会の中で聴いたオラトリオやミサ曲からうけた魂の喜びという感情は、それ以来どの演奏会場でも経験することのできないほど、深く心の中に生きつづけている。そのような経験が重なるにつれて、ヨーロッパの各地を旅する度に、その町の美しい教会を訪れることが、私のいちばん大切な仕事の一つとなっているそして、西ヨーロッパの各地だけにとどまらず、当時まだ入国許可をとることがきわめて難しかった東ドイツの教会を訪れる、という願いがおさえきれないほど強くなってしまったため、こっそり不法入国したことさえあった。先ず東ベルリン科学アカデミーの知人を訪問した帰途、そのまま汽車でドレスデンに向かった。第二次大戦末期の大空襲によって数万人の犠牲者を出したこの町の中央駅に降り立つと、すぐ見渡すかぎり広がった廃墟の中に取り残されたクロイツ教会に向かった。このバロック教会は爆撃によって破壊された跡を荒塗りのままのコンクリートの壁で繕い、ステンド・グラスの代りに板を打ちつけた無惨な姿になっていたが、その中で行われたミサでは天使のコーラスと呼ばれて、ドイツでいちばん優れた聖歌隊とされていたクロイツコーアのコーラスを聴くことができた宿泊許可をとっていない以上、その晩は荒れはてた駅の構内で夜を明かすしか方法はなかったが、次の日訪れたライプツヒでは、バッハ自身がカントール（楽典長）をつとめて、最後の二十七年間を過ごし、あの口短調ミサ曲を頂点とする名作を次々と世の中に送り出しつづけたトーマス教会でも、ミサに参加して、あのオルガンの演奏と教会付属合唱団のコーラスを聴くことができた。もちろん当時のような烈しい東西対立の中にあって厳しい入国管理をしていた東独に、このような無謀なやり方で入りこんで、もし見つかればスパイ扱いにされてどんな目に合わされる

かわからなかった筈であるしかし、当時かなり多かった中国人留学生と間違われたらしく、その後さらにワイマールのゲーテ記念館とニーチェ・ハウスに立ち寄って、フランクフルトに抜け出すまで何事もおこらずに済んでほっとした。二年間のゲッチンゲンでの生活を終えて、哲学を学ぶために移った南西ドイツのフライブルクの町には、幸いなことに、ドイツのゴシック大聖堂の中でいちばん優れた作品といわれるミュンスター大聖堂が建てられていた。この教会堂は、近くから見上げたときの簡素な美しさだけでなく、少し離れたシュヴァルツワルトの森の山腹から眺めたときにも古い町並にじっくり調和し、見事なプロフィールを浮き立たせていた。とりわけその正面の高い尖塔は石材で組み上げたということがほとんど信じられないほど、軽快で優雅な姿を蒼空にとけこませていて、これこそヨーロッパの尖塔の中で最も美しい作品である、と激賞している人々が多い。フライブルク大学に通っている間に、ゼミや図書館からの帰りに、大学に近いこの聖堂の前にたたずんだり、シュヴァルツワルトのタンネの森の中を逍遙しながら、緑の木々の間に見た、レースを編んだようなこの塔のイメージは一年間にわたってその著作を取り組みつづけて、講演を聴くだけでなくとうとう御自宅を訪れて貴重な時間をさいてお話を伺う機会さえ作っていただいたハイデッカー先生の温顔とともに、私にとってに家をでることになるが、やがて講義室に朝日が差し込んで、彫りの深い教授の顔と黒板に書かれたギリシア語やヘブライ語の文字をくっきりと浮き立たせていった光景を、今でも懐かしく思い浮かべることがある。また、日曜日毎に教会に通ってミサに出ているために、ドイツ人の学生仲間のうちには、当然私がクリスチャンであると考えていた人が多かったし、神学部での講義室や教会を通じて知り合うようになった何人かの親しい友人達は、その後教師となり、今も時おり文通がつづいている。々の芸術作品からうけた深い感銘は、今でもありありと思ひ浮かべることができる。そして、このときにパリからうけた印象は、世界のファッションの中心としての華やかな街のイメージである以上に、名も知られない街路の一つひとつに刻みつけ

0
0
0
0
0
0

0...5

も言いすぎではない。その上、教会の中で演奏される宗教音楽は、グレゴリオ聖歌やオルガン曲にとどまらず、カンタータやミサ曲、オラトリオなどいくつかのジャンルがあって、それらもまた教会を訪れる人々にとっては、この建築物と切り離せない重要な意味も持っている。そして、私にとっても、ゲッチンゲンのクリスマスの雪の夜に、ゴシックのトーマス教会の中で聴いたオラトリオやミサ曲からうけた魂の喜びという感情は、それ以来どの演奏会場でも経験することのできないほど、深く心の中に生きつづけている。そのような経験が重なるにつれて、ヨーロッパの各地を旅する度に、その町の美しい教会を訪れることが、私のいちばん大切な仕事の一つとなっているそして、西ヨーロッパの各地だけにとどまらず、当時まだ入国許可をとることがきわめて難しかった東ドイツの教会を訪れる、という願いがおさえきれないほど強くなってしまったため、こっそり不法入国したことさえあった。先ず東ベルリン科学アカデミーの知人を訪問した帰途、そのまま汽車でドレスデンに向かった。第二次大戦末期の大空襲によって数万人の犠牲者を出したこの町の中央駅に降り立つと、すぐ見渡すかぎり広がった廃墟の中に取り残されたクロイツ教会に向かった。こ

*1
町の美しい教会を訪れることが、私のいちばん大切な仕事の一つとなっているそして、西ヨーロッパの各地だけにとどまらず、当時まだ入国許可をとることができた宿泊許可をとっていない以上、その晩はけその正面の高い尖塔は石材で組み上げたということがほとんど信じられないほど、軽快で優雅な姿を蒼空荒れはてた駅の構内で夜を明かすしか方法はなかったが、次の日訪れたライプツヒではバッハ自身がカントール。
*2
をつとめて、最後の二十七年間を過ごし、あの口短調ミサ曲を頂点とする名作を次々と世の中に送り出しつづけたトーマス教会う願いがおさえきれないほど強くなって

かった中国人留学生と間違われたらしく、その後さらにワイマールのゲーテ記念館とニーチェ・ハウスに立ち寄って、フランクフルトに抜け出すまで何事もおこらずに済んでほっとした。二年間のゲッチンゲンでの生活を終えて、哲学を学ぶために移った南西ドイツのフライブルクの町には、幸いなことに、ドイツのゴシック大聖堂の中でいちばん優れた作品といわれるミュンスター大聖堂が建てられていた。この教会堂は、近くから見上げたときの簡素な美しさだけでなく、少し離れたシュヴァルツワルトの森の山腹から眺めたときにも古い町並にじっくり調和し、見事なプロフィールを浮き立たせていた。とりわけその正面の高い尖塔は石材で組み上げたということがほとんど信じられないほど、軽快で優雅な姿を蒼空にとけこませていて、これこそヨーロッパの尖塔の中で最も美しい作品である、と激賞している人々が多い。フライブルク大学に通っている間に、ゼミや図書館からの帰りに、大学に近いこの聖堂の前にたたずんだり、シュヴァルツワルトのタンネの森の中を逍遙しながら、緑の木々の間に見た、レースを編んだようなこの塔のイメージは一年間にわたってその著作を取り組みつづける。

町の美しい教会を訪れることが、私のいちばん大切な仕事の一つとなっているそして、西ヨーロッパの各地だけにとどまらず、当時まだ入国許可をとることができた宿泊許可をとっていない以上その晩は。
*3
尖塔は石材で組み上げたということがほとんど信じられないほど、軽快で優雅な姿を蒼空荒れはてた駅の構内で夜を明かすしか方法はなかったが、次の日訪れたライプツヒでは、バッハ自身がカントール（楽典長）をつとめて、最後の二十七年間を過ごし、あの口短調ミサ曲を頂点とする名作を次々と世の中に送り出しつづけたトーマス教会う願いがおさえきれないほど強くなってしまったため、こっそり不法入国したことさえあった。